

沖縄リハビリテーションセンター病院の取り組み

- 自動車運転再開支援の体制整備を目指して -

高次脳機能障害支援コーディネーター 作業療法士 鈴木里志

沖縄県の支援拠点機関

リハビリテーション医療



沖縄リハビリテーション
センター病院

美ら海水族館 ●

辺戸岬 ●

那覇空港 ●

精神科医療



平安病院

医療法人タピック 沖縄リハビリテーションセンター病院の紹介

平成8年11月開設 回復期リハビリテーション病棟 病床数（199床）

標榜科 リハビリテーション科、内科、整形外科、脳神経外科、精神科



併設施設

- ・老健施設「亀の里」
- ・居宅介護支援「沖縄ケアサポートセンター」
- ・サ高住「ラ・ペジューブル泡瀬」
- ・訪問看護「訪問看護ステーションあわせ」
- ・訪問介護「あわせヘルパーステーション」
- ・訪問リハ「訪問リハビリテーション室」
- ・通所介護「デイサービスあわせ」
- ・通所リハ「百歳堂デイケアセンター」
- ・精神科デイケア「高次脳デイケア」

高次脳機能障害デイケアの紹介

平成19年8月開設 精神科デイケア・ショートケア（大規模）

一日定員20名 平均年齢59歳

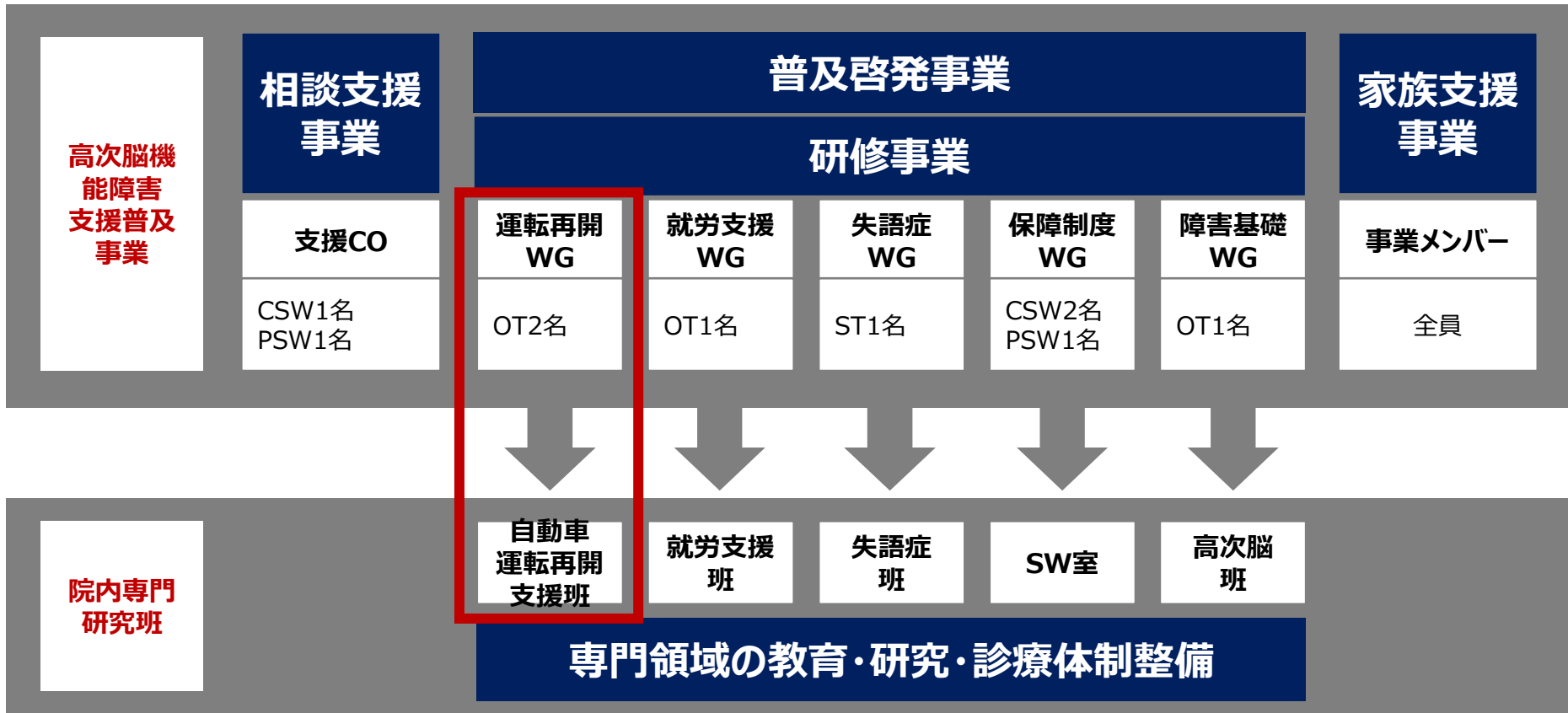
地域移行に向けた支援



プログラム

- ・ 認知訓練 : グループワーク、健康講座
- ・ 生活訓練 : 調理、製菓、ショッピング
- ・ レクリエーション : ニューゲーム、フィールドワーク
- ・ リハスポーツ : 障害者スポーツ
- ・ 園芸活動 : ガーデニング、作物栽培
- ・ 創作活動 : 絵画、陶芸、手芸
- ・ 余暇活動 : 主体的サークル活動
- ・ レジャー活動 : ショートトリップ
- ・ 就労準備 : 福祉就労見学ツアー

高次脳機能障害支援普及事業の運営体制



院内専門研究班と連携し、事業を計画・実施

院内専門研究班 自動車運転再開支援班

●メンバー構成

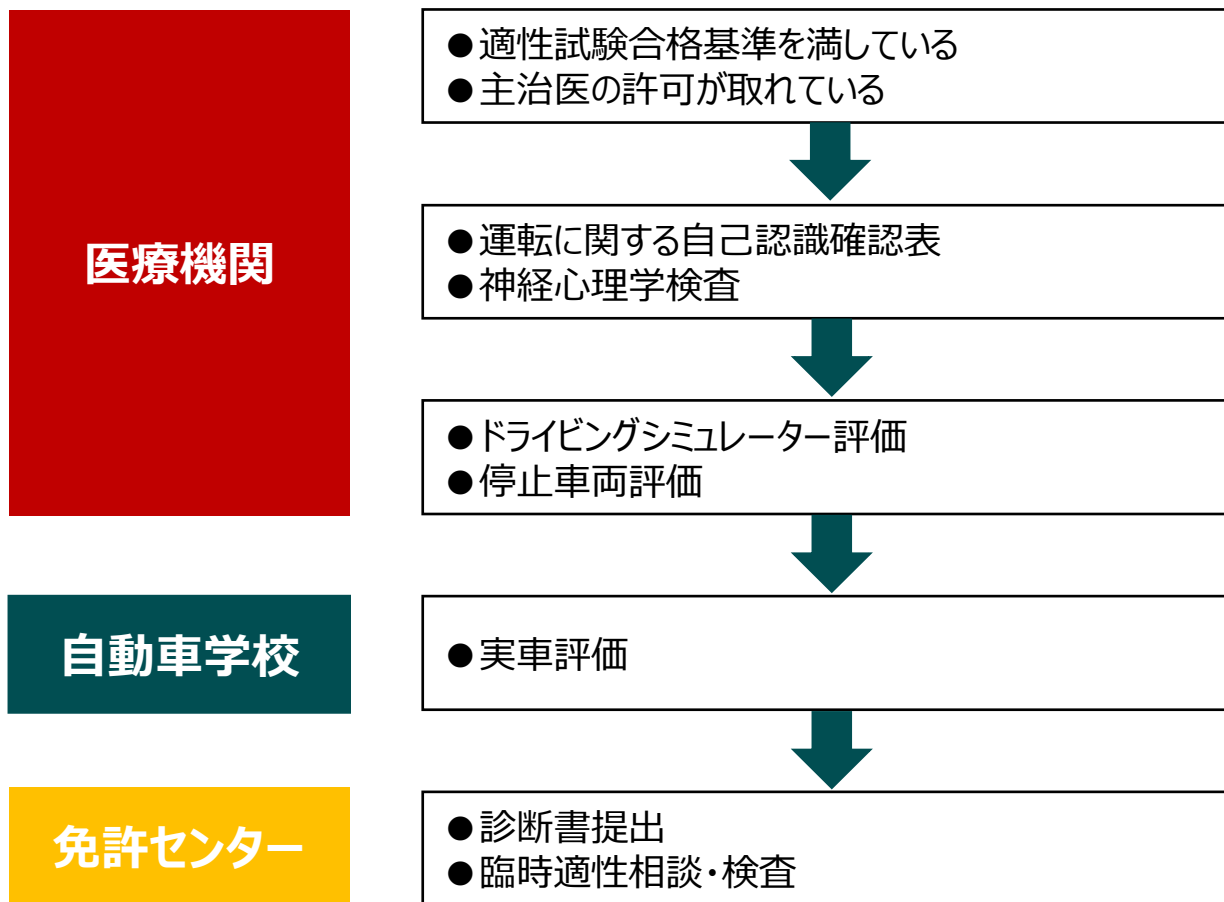
- Dr 1名／OT 8名／ST 6名／MSW 2名／ 計17名

●研究班の活動内容

- 院内の自動車運転再開支援マニュアルの整備
- DS（Hondaセーフティナビ）の管理
- 自動車学校との連携シートの作成
- 支援実績のデータベース化
- 院内研修会・事例検討会の実施
- 学会報告ならびに研究発表



当院の運転再開支援の流れ

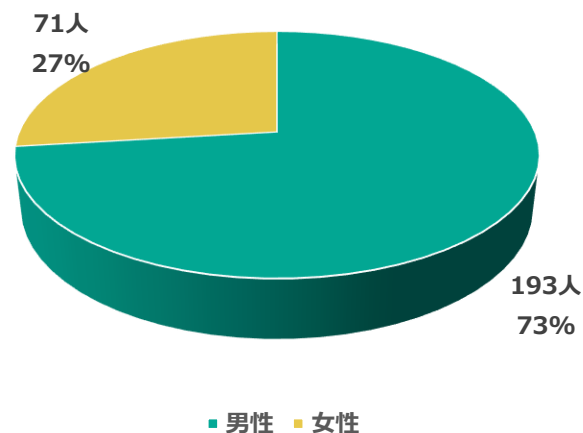


運転再開

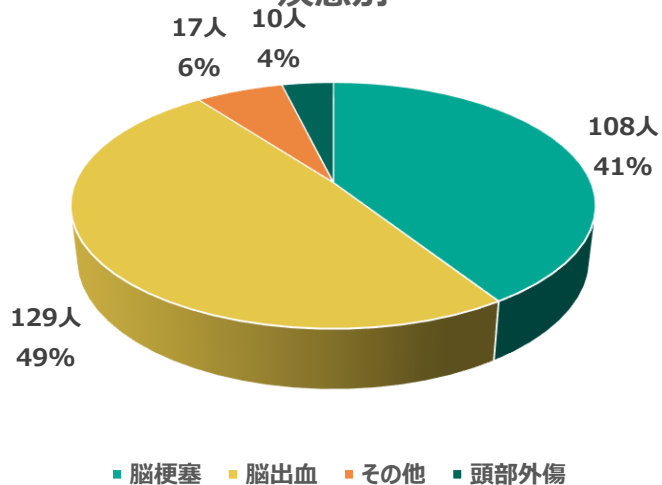
当院の運転再開支援実績

- H27～H30年度の総支援者数264人
- 実車評価同行者数53人
- 平均年齢55.2歳

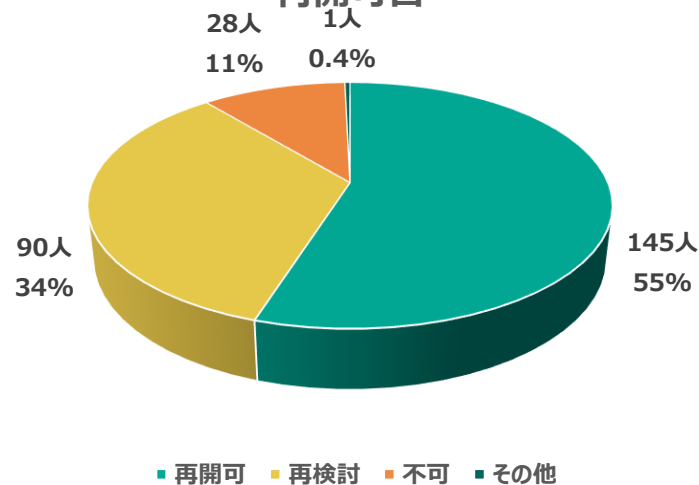
男女比



疾患別



再開可否



沖縄県の道路事情

● 沖縄も車に依存した社会



- 鉄道がない
- 沖縄都市モノレール『ゆいレール』はあるが限られたエリアで運行
- バスの利用者少ない
- 自家用車がないと生活ができない
- 脳損傷の患者さんも自宅に退院されると、すぐにでも自動車運転が必要となるため、運転再開を希望するケースは多い

沖縄県作業療法士会特設委員会 『沖縄の移動を考える作業療法委員会』



- 自動車運転再開支援に関心のある作業療法士により結成
(県内13の医療機関より集結)
- 評価ツールの作成や、勉強会を開催し、県内作業療法士による支援の統一化を図る
- H29年度より沖縄県高次脳機能障害支援普及事業へ参画し、県内の支援体制整備に協力いただいている

H29年度 シンポジウムの開催

● 基調講演

「高次脳機能障害者の自動車運転再開にむけて」

東京都リハビリテーション病院 医師 武原 格 氏

● パネルディスカッション

「沖縄県における自動車運転再開支援の現状と課題」

医療法人おもと会 大浜第一病院 リハビリテーション科 医師

一般社団法人 沖縄県作業療法士会 作業療法士

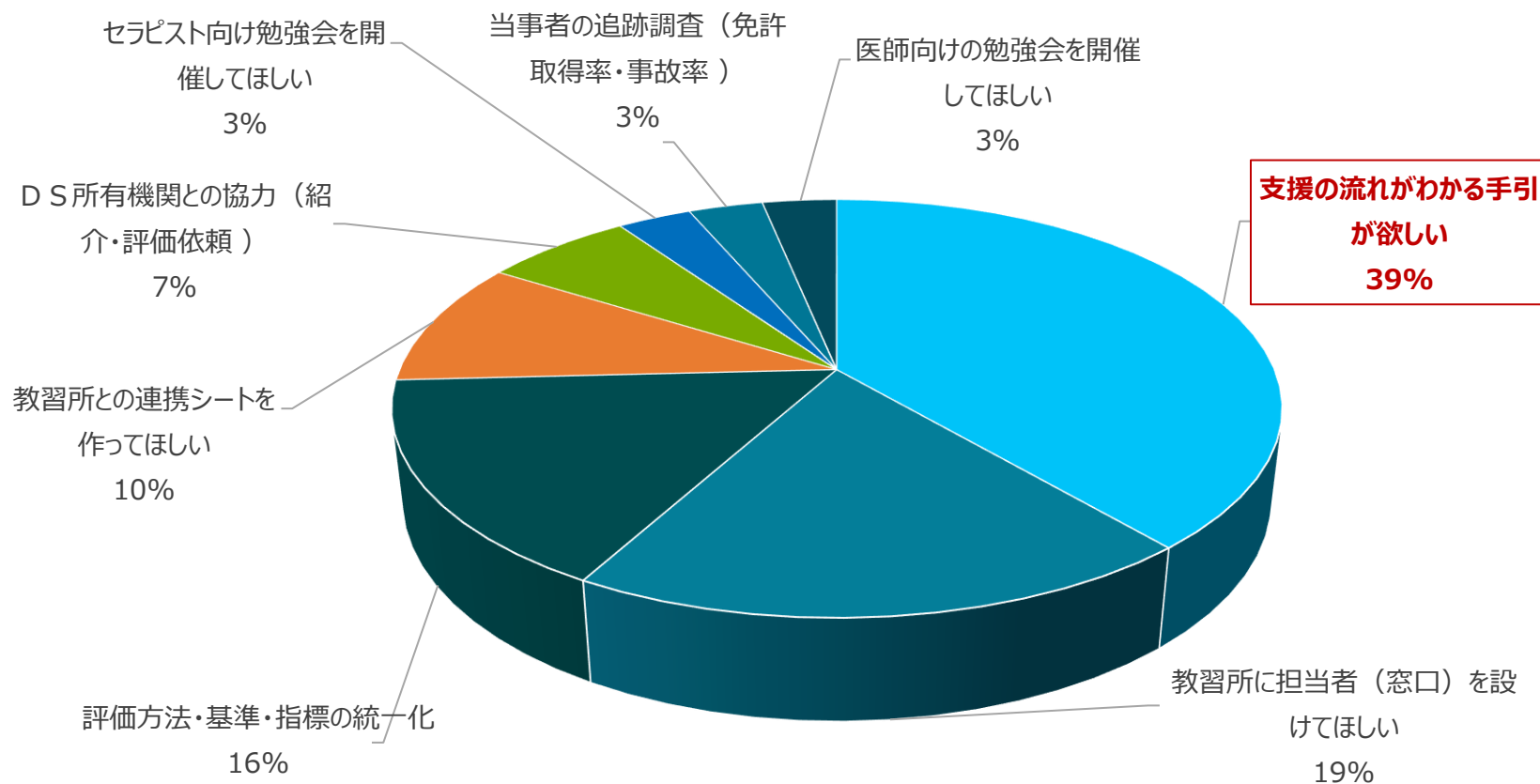
(株) 津嘉山自動車学校 指導課長

沖縄県警察本部 交通部運転免許課 課長補佐

沖縄県警察本部 交通部運転免許課 適性相談係



シンポジウムのアンケート結果より



事業でできること
県内の支援の流れが統一化されるように支援方法の案内ツールを作成すること

H30年度 高次脳機能障害ハンドブック –自動車運転再開編–

- 医療・自動車学校・沖縄県警察（運転免許センター）が協働で作成

コンテンツ

- ・ 高次脳機能障害者とは（医療）
- ・ 高次脳機能障害と運転行動（自動車学校）
- ・ 高次脳機能障害者の自動車運転の特徴（医療）
- ・ 病気と自動車運転免許制度（免許センター）
- ・ 運転再開までの流れ（共同）
- ・ 運転再開が決まった場合（医療）
- ・ 運転断念が決まった場合（免許センター）
- ・ お問合せ窓口（共同）
- ・ ご本人、ご家族様へ（医療）



📄 こちらからダウンロードできます

<https://www.pref.okinawa.jp/site/kodomo/shogaifukushi/old/23507.html>

H29年度『沖縄の移動を考える作業療法委員会』が実施した 県内医療機関の自動車運転再開支援実施状況調査の結果より

- 県内の37医療機関へアンケート調査（20施設から回答）
- 11の施設で運転再開支援に携わっていることが確認された
- 神経心理学検査は評価しているが、検査項目にバラツキがあり、判定基準について不安を持っている
- 設備として、DSや教習施設を持っている施設は1か所のみ
- 沖縄県内の医療における運転支援は整理されておらず、運転再開に携わるセラピストは、個々で不安を抱え悩みながら支援している現状がある

事業でできること
支援経験の豊富な医療機関から学ぶ機会を提供すること

H30年度 医療従事者向け研修会

「高次脳機能障害者に対する自動車運転再開支援」

一般財団法人操風会 岡山リハビリテーション病院 作業療法士 酒井 英顕 氏

- 運転再開支援の流れ-障害と運転技能を包括的に評価するポイント-
- 運転リハビリサポートコースの紹介、自動車学校との支援の実際



H31年度 自動車学校訪問調査

- 当院近隣の自動車学校7か所を訪問し実車評価の実施状況について聞き取り
- 経営的な難しさから受け入れが困難な施設、関心が高く、意欲的に障害者教習に取り組む施設・・・等
- 実車評価に対応できる自動車学校を増やして欲しいという声
- 障害の影響なのか運転が不得意なのか見分けが難しいという意見
- 沖縄県内の実車評価の受け入れ状況は施設により温度差がある。実車評価を受けれている施設は、高次脳機能障害ならでの「見えない障害」に戸惑いながら教習を行ってるのが現状

事業でできること

実車評価に関する支援イメージ持ってもらうとともに、医療機関と自動車学校の連携の在り方について考える機会を提供すること

R元年度 自動車学校指導員向け研修会

「自動車運転再開支援における自動車学校と医療機関の連携」

株式会社 岡山自動車教習所 副管理者 次長 横山 喜孝 氏

- 実車評価のポイント-気付きを与える指導例-
- 「障害」の専門家と「運転」の専門家が協力し適正に評価することの大切さ



これまでの取り組みを振り返って

●H29年度 シンポジウム

➡県内の現状と課題を知る機会となり、顔の見える関係が作れた

●H30年度 ハンドブック作成

➡医療・自動車学校・免許センターが協働し県内におけるスタンダードな支援の流れを構築することができた

●H30年度 医療従事者向け研修

➡運転再開支援について取り組みたい人材の育成

➡運転再開支援を実施する医療機関の確保

●R01年 自動車学校指導員向け研修

➡熱意ある自動車学校の出現

➡美ら島の移動を考える会の発足

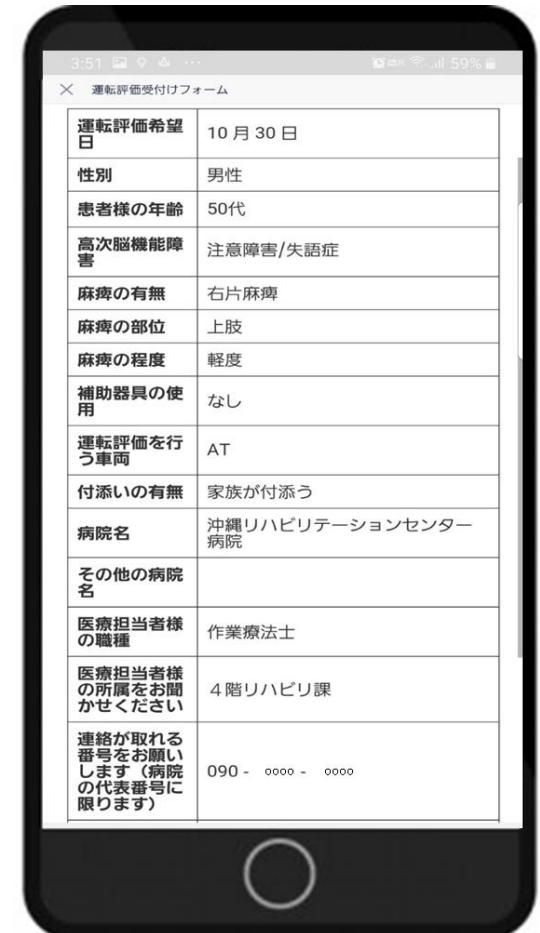
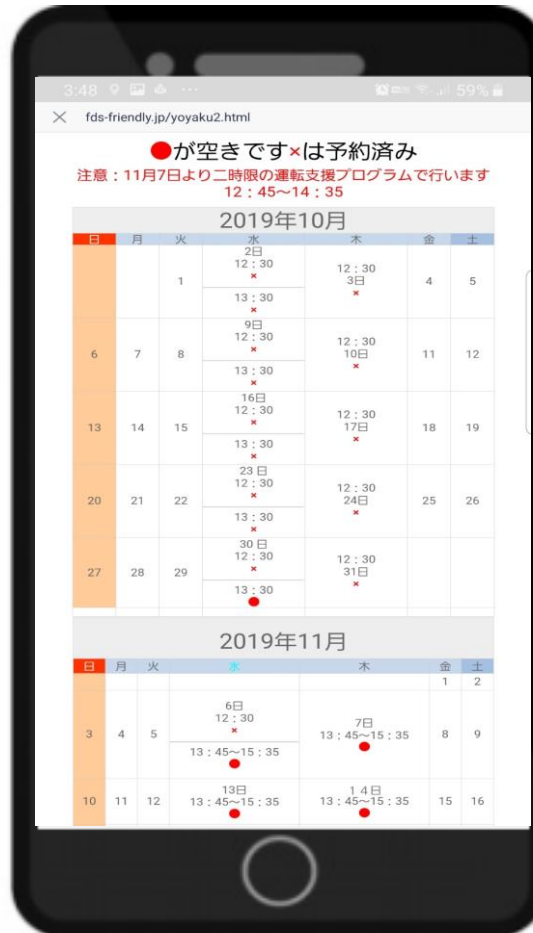
R2年 美ら島の移動を考える会発足



- 沖縄県作業療法士協会 沖縄の移動を考える作業療法委員会と運転再開支援に積極的に取り組む県内3カ所の自動車学校で結成された会
- 合同勉強会、情報交換会を開催し、連携を図る
- 沖縄県高次脳機能障害支援普及事業も会の取り組みへ参画し、県内の支援体制整備に協力していく

熱意ある自動車学校の取り組み

● 高次脳機能障害専用予約システムの考案



沖縄県の自動車運転再開支援における今後の課題

- 運転再開支援の質を担保するために医療従事者に対して研修機会を提供していくこと
- 自動車学校指導員への障害理解を促進し、実車評価が実施できる自動車学校を増やすこと
- 関連団体同士をコーディネートし関係機関の連携強化を図ること

関係機関の連携イメージ

